

昭和三十九年三月十二日招集(第二号)
第一回市議定会定例会々議錄

館山市議會第一回定例会之議錄（第二号）

昭和三十九年三月招集

一 三月一二日（水曜日）

議事日程（第二号）

議案第五号 昭和三十九年度 館山市一般會計予算

議案第六号 同 公益質屋特別會計予算

議案第七号 同 國民健康保險特別會計予算

第一議案第八号 同 上畜場特別會計予算

議案第九号 同 簡易水道特別會計予算

議案第十号 同 休養施設特別會計予算

議案第十一号 同 館山市土木及工務特別會計予算

議案第十二号 同 上水道特別會計予算

三月十二日 午前十時十分開議

議長（黒川左太郎君）本日出席議員数二十九名。

こゝより第一回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

日程第一、議案第五号乃至第十二号、昭和三十九年度一般会計並びに特別会計予算案を一括して議題といたします。

こゝより各会計予算案の内容説明を求めます。

前例により議案第五号歳出の部より行ないます。

こゝ際各説明者に申し上げますが、発言は廣くで重点的、かつ簡明適切に願います。

（総務課長山口実君登壇）

総務課長（山口実君）昭和三十九年度一般会計予算でございすが、薄い方が五頁、館山市一般会計の予算でござ

いですが、これは自治法を改正によりまして自治省令で制定するところによって示したうでございす。内容は予算についてはその内容が従来の歳入歳出予算のほかに、継続費、債務負担行為等合わせて予算の内容となつたうで、従来の表も構成を改めましてここに示しました一条から五条の割戻金と第一表が予算、第二表が継続費、第三表が地方債、こういったものが全部予算の内容として表示することになつたうでございす。またこのうで予算を説明するため、別冊で予算事項別明細書、こういったものをやはり省令によって定めらしたうでございす。

本日は、薄い方が予算書と説明書両方によってこれから説明するようになっています。

薄い方が一ページ、議会費、厚い方が二七ページ、議会費、いつきましては総額二千四百四十万九千円、この内容でございす。

でございますが、厚い方によつて説明申し上げます。

議会費二千四百四十四万九千円、これは全額一般財源によつて処置いたします。

特に議会費につきまゝでは、人件費を除きまゝで、前年と大差ございませんが、旅費関係で特別旅費一人二万円、三十六人、これは従来、五十四万でいたが、七十二万に組みかえまゝだ。

負担金補助金関係でございますが、大体前年並みの負担金でございますが、特にわかりまゝなのは、内外防衛施設都市協議会一万円上つておりますが、前年は七千円、次の岡崎市議会研修会負担金、全国記録事務研修会負担金、こゝを新たに上程いたしました。大体議会費につきまゝでは以上でございます。

(秘書課長 小倉隆男君登壇)

・秘書課長（小倉澄男君）人件費につきまゝて申説明申し上げ
ます。おことわりいたしたいのでございますが、自治法の改
正によりまして人件費はただ今までと違ひまして関係款
にこれを分散せよということでございますので各款にそれ
ぞれ関係人件費が散在してしまひますので特に人件費
だけは総括していたしまして申説明をいたしたいと思
います。

それでは明細書が一〇五ページと一〇八ページに書いてあります
通り本年度人件費総額二億三千八百六十八万二千円
を計上いたしてました。

前年度が二億三百八十七万三千円に比べまして三千四百
八十万九千円増になつております。この内訳でござい
ますが、報酬におきまして三百万円余、給料、これは取
算給でございしますが、二千百二十万、諸手当におきま

して七百九十四万円、計三千二百二十万九千円、その中に
 取員の共済掛金二百六十万、この合計がただ今申し
 上げの総額が三千余万円、増額になっております。
 二のつきまゝで概略の説明申し上げたいと思います。

まず報酬はベースアップ改定による三百万円でございます。
 給料におきましては一般取員のベース改定により
 ます増額が約九百万円、その他人員の欄でございますが
 十四名、これはあくまでも三十八年度、当初予算と本年
 度の当初予算の増でございまして、十四名でございます。
 ます、その主たるものには、実はその後、勧奨奨励取に
 より、この十六名の人員がございまして、実質は
 もっと増になっておたのでございますが、予算といたしま
 して人員増を新たに計上いたしたものが、高等学校
 取員九名、幼稚園取員三名、消防取員八名の増

それに新規採用十二名というふうなものを予定いたして
おりまして、人員増にすぎませんが五百三十万円余、その
他に館山市の取員が現在の給与ベースを勘案いたしまし
たときに他市に比べましてかつ、国家公務員の給与ベース
に比べまして、あまりに低いというふうなことを勘案いたし
ますとともに、昨年から事務改善を推進いたしまして
取員も一生懸命それに従事しておるというふうなことに
よりまして、本年の四月一日を期しまして、一号アップを計
画いたしました。それに要する費用が約四百万円その他
自然増が二百九十万円、これが給料の二千二百二十万円が
増になっておる次第でございます。諸手当が七百九十四万
円でございますが、これはベース改定にすぎず、人件費の
増とそれにすぎます。期末手当、勤勉手当、賞与、
たアップ分並びに暫定手当もベース改定にすぎまして、

百万円の増になっておりますが、通勤手当が給与改定によりまして、約百万円、扶養手当が五十万円、超勤手当六十万円、期末手当が百万円というように、期末手当は、総額におきまして、〇・一ヶ月分、勤勉手当が〇・一ヶ月分、増ということになります。増額が七百九十四万円でございます。そして、トータルがただ今、三千四百八十九万九千円でございます。なお、共済掛金というものは、実質千九百・五だけ市の掛金が少なくなっております。でございますが、ベース改定によりまして、総額が給与費が膨張いたしたために結果といたしましては、二百六十万円の増という事になっております。以上簡単にございますが、一般会計の人事費関係の概括を、説明申し上げました。

(総務課長 山口 実 君 登壇)

・総務課長(山口 実 君) 厚い方が二九ページでございますが、文際

費市長交際費 百十萬、これはいろんな事情がございまして
前年度八十萬でございまして、今年特に姉妹都市の関
係等もございまして増額いたしました。

市交際費は前年通りでございします。

需用費におきましては一応一年間見込みに入るものをお願い
するものでございます。

次に十五節、工事請負費、現在使用しておりますボイラ
ー施設でございしますが、現在のものは、石炭でやっております
でございします。現在石炭でボイラーをたいていくところ

は非常に少ないのでございまして、基準監督所あ
だりの指導も受けまして、重油に切りかえた方が非常
に細格の点についても割安でよろし。作業の面にお
いても非常に安易になる。こういうことで本年ボイラ
ーの改造を八十萬で執行しようというふうに計画いた

しよーた。

次に十七節の公有財産購入費でございますが、今まで
 こういったものは、財産費に計上しておりましたが、今回、こ
 に合わせて計上いたします。

次に十九節の負担金うちで千葉県内鉄道整備保
 進同盟負担金八十一万四千円。この負担金でございますが、
 昭和三十九年度より県内、鉄道網を整備いたしまして鉄
 道乗客の緩和をするために一応鉄道をもって四億四千円
 の起債を起し、ましてこの起債につきまして鉄道沿線
 の各都市が二十四百万円の利子補給をしていただきたい。
 こういうことでもって県で六百十五万、千葉市で三百万そ
 の残額を関係市町村でもって負担しようとするものでござい
 まして、本市で負担するものが八十一万四千円でございます。
 次に三一ページ、文書広報費一節の報酬三十九万二千円

これは現在市におります連絡員十七名分に対する報酬でございます。

次に委託料二百二十六万三千円、これは市内の町内会、若しくは町内会と関係するところに出す事務委託料でございます。市内百三十三区域に出すものでございます。

三二ページ二十四節投資及び出資金でございます。百円お願います。ことにあります。これは事務改善によりまして、市で物品を集中購入して物品を安く買う計画のもとに、資金を設けて、この基金に百万円投資しようというものでございます。

次に三四ページ積立金八十六万三千円、これは里見氏居城復元基金十六万一千円、この面につきましては、次の案件で、もって復元資金の基金を廃止する予定でございます。一応廃止の時期等も考えまして、ここに利子を計上して

ございしますが、場合によりましては、この利子が廃止の關係で、もつて減額されることになるかもしれません。

(税務第一課長 高木哲三君登壇)

・税務第一課長(高木哲三君) 三六ページ税務、総務費について、中説明申し上げます。

この中には、税務二課の關係のものも入っておりますが一課の關係のものだけ、中説明申し上げます。

昨年と違いますのが、八箭に固定資産評価補助員表彰、六千円とございます。

これは今まで大工さんに評価補助員となつて、家屋の評価をさいており、ところが、今年度から、取員でその評価をやります。定で、今ヨで、永年やつていただき、その關係で表彰というふうな、かつこうでやめていただくというところでございます。

九箭の旅費、これは審査委員会の委員の費用弁償とさせていただきます。

ら税務調査費の旅費でございます。

負担金補助及び交付金で八万七千円、これは軽自動車税事務の取員の共同設置費の分担金二万八千円、それから自衛隊関係の全国税務協議会への負担金が四万五千円、これがおもなものでございます。あとは昨年と同様でございます。

(企画室長 谷貝茂生君登壇)

企画室長(谷貝茂生君) 三四ページ企画費五十四万二千円の内容でございますが、本年度は企画部内といった一ことで長期計画を立てていただくと考え方でこのような予算をお願いするものでございます。お承知のように本市は新市建設計画に基きこーて五カ年計画を立てて実施中でございますが、すでに四年目を向えて大分経済的にも国策の方針等から照らし合ひましても、いろいろと事業の変更を余儀なくされるような事態になつて参りまーた、こー五カ年計画は切に

ようとしておりますので、住民生活の水準の向上をはかるため
 には、どうしても事業を効率的に実施していかなくてはならな
 い。そのためには、長期計画、将来の姿をどういうふうに掲げ
 いくかということが必要でございますので、五カ年計画が
 切いようとしておるときでもございますし、最近東京工業
 業地帯の工業への変革等から或いは経済事情等
 からいたしまして、この辺で市が抜本的な方向を強く
 打ち出していかねければならないということから、中承知の
 ように本年度市勢振興、総合調査を現在全国
 市長会にお願いいたしまして実施中でございます。
 それが今月いっぱいまで大体完了いたしまして提出され
 ることになっておりますので、その調査等をお参考にい
 たしまして、皆さま方の指導とご理解をいただきながら
 新年度は、長期計画に取り組みたい。

その意味におきまして要するいろいろの経費を一応の願
いするものでございます。

第一節の報酬は建設審議会より委員報酬八万四千円
十三節委託料、これは長期計画を作成する指導、助
言をいただくため、先生方より委託料でございす。
十九節負担金補助及び交付金の五万円は果が内
陸面における低雨発の振興策といたしまして事業を
推進するため協議体より五万でございす。

(秘書課長小倉澄男君登壇)

秘書課長(小倉澄男君) 三五ページ事務改善推進費につ
いての説明申し上げたいと思ひます。

昨年の暮に市決議をいただきました予算外義務負
担にふるものを四百五万二千六百円をこぜまして総額で
九百六十四万計上いたしました。

そのおもなものを申し上げますと、備品費におきまして四百十七万五千円、これは事務改善に使用いたしまする種々機械器具類でございます。

それから委託料の三百万円でございますが、これは事務改善の住民に周知しますためのブラカードという宛名カードのもとになりますものを全世帯のものを作成するということで三百万円を全額を計上いたしました。その他消耗品等すべて四月一日から施行いたします事務改善関係の必要経費をここに計上いたした次第でございます。

(税務第二課長 多田俊一君 登壇)

・税務第二課長(多田俊一君)

三六ページ税務第二課関係の予算を説明申し上げます。そのおもなものを申し上げますと、八節の報償費の中に納税組合奨励金、これは二百七十二万九千円ござい

ます。これは毎年納税組合長に対し、まして納税組合
の奨励金、それから組合長会議の表彰記念品代とい
うものを含めまして前年より五十万近く増でござい
ます。二十節十五万円。これは過年度支出金とい
まして、
納税額より還付金等を含めております。

二目、賦課徴収費のうち報償費二十二万。これは納期
前納付に対する報償金でございまして、十一節の
費用の中の食料費の十万一千円は、納税組合長
会議の食料費でございまして、その他、ことにつ
きましては前年度と同様でございましてよろしく
お願いいたし
たいと思います。

(市民課長 羽山房雄君登壇)

市長課長(羽山房雄君)

厚い方、三(ページ)戸籍、住民登録費について、

たします。

本年は人件費を含めまして八百九十二万二千円計上
いたしませんでした。

そううち需用費につきましても三十万九千円でございます
が大体こゝは戸籍住民登録事務におきます一昨
年ノ消耗品印刷その他ノ諸需用費でございます。

なお十九節ノ負担金補助金でございますがこゝは前
年同様館山支局管内ノ住民登録協議会、こゝ負担金
が四万五千円、千葉県内ノ外国人登録事務協議会費
三千円、配給事務ノ部会費五千円、そのようにな全部同
様ノものを組みました。よろしくお願ひいたします。

(運営書記長大嶋重義君登壇)

・運営書記長(大嶋重義君)三九頁ノ四項運営費について
中説明申し上げます。

本年度予算二百三十四万三千円計上いたしまして、前年度予算に対して七十七万九千円減でございますが、これは本年度海軍調整委員の選挙以外には、今ところ選挙は予定されておりませんので、このため減額でございます。選挙管理委員会費でございますが、これは選挙管理委員会、経常的事務でございますので、ほぼ前年と同様のものを計上いたしました。

公明選挙費でございます。二十一万計上いたしました。本年度は先ほど申し上げました海軍調整委員選挙以外には選挙はございませんので、選挙の仕事はもっぱらこの啓発に力を注いで行ないたいという方針のもとに予算を組んだわけでございます。

報償費、五万七千円は、大体政治講座の開催、講師の謝礼とか、或いは話し合いを進めていく場合の助言

着と要請するため講師・謝礼等が四万七千円でございす。

報償費一万円は、新有選者になった人たちの感想文を募集いたしまして、その記念品代、公明選挙の標語の募集を行ないたいということから報償金五万円の内容でございます。費用費でございますが、こゝらうものはおもに話し合い活動を進めていさす上におきまして消耗品茶菓代、テキストを作るというふうなものが十萬二千円でございます。

十三節、委託料でございますが、公明選挙の常時啓発を行ないますべく選管もこの仕事をやっていくのでございす。各協力団体といたしまして、館山市公明選挙推進協議会という団体がございす。この団体と車、所

輪、ふうな関係をもつて運動を進めていくということから委託料として公明選挙推進協議会に事務委託費と

して三万円計上いたした次でございします。

三目、漁業調整委員、選挙費で六万六千円でございします。本年の八月頃任期満了によつて漁業調整委員の選挙が行われる予定でございします。で、基準法の基準に準拠いたしまして報酬、これを執行する事務費をこのように計上いたした次でございします。

(農産統計課長 伊藤幸太郎君登壇)

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 四ページ統計調査費でございします。予算額が二百四十三万一千円でございまして、その内容といたしましては統計調査員百七十名の報酬係取買、人件費がおもなものでございまして、以下は需用費におきまして消耗品、それから図書費或いは負担金補助金というようなことでございまして、それらの費目に計上してございします。で、仰子承願いたいと考えております。

(総務課長 山口実君 登壇)

・総務課長(山口実君)四三ページ監査費について説明申し上げる
報酬給料諸手当を除きましては、他のもうひとつきまして
は前年並みの費用をここに計上いたしました。

次に薄い方、一ページただいま説明いたしました総務費
の合計が一億一千七百七十九万でございます。

・議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午前 十時五十五分 休憩

午前 十一時五分 再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

(福祉事務所長 鶴沢貫覚君 登壇)

・福祉事務所長(鶴沢貫覚君)薄い方、一ページ三救民生費

七十九百十八万三千円について中説明いたします。

厚い方、四三ページ民生費、社会福祉費でございますが、民生費は、前、予算、社会労働施設費の中から住宅管理費、市営住宅建設費、失業対策事業費、三項を除いた福祉関係、予算でございます。

社会福祉総務費の中には、前、予算、民生委員費、労働福祉費、身障者援護費、戦傷病者援護費、精養者援護費、厚生援護費等が含まれておるわけでございます。

民生費、社会労働施設費と比較してみますと、前に申し上げました三項目の費用が除かれています。そのかわりに各款に人件費が入って参りました。

それから新しく老人福祉関係、予算、児童措置費、増額等を見ますと、前、三つの予算とたいてい

申し上げました人件費以下予算とが大体ほとんど
でございまして民生費と社会并働施設費との差額
が大体八百万程度でございす。そう差額は大体生
活保護費の基準改定によります増額分に相当す
るわけでございます。その他額は前年と大差ござ
いせん。

四四ページ十三節委託費四十二万六千円、これは民生委員
事業委託料で前年と同額でございます。

四五ページ負担金補助及び交付金の中、保護司会
十万円というがでございます。これは今年度、鎌山市で
保護司会う大会が開催されるために補助金として計
上いたしました。

社会福祉施設費、これは前々福祉事業諸費の予算
でございます。

ニハ大体前年度と同額でございます。

四六ページ児童福祉費。ニハ保育所関係の人員費、児童福祉総務費は保育所関係の人員費が大部分でございます。

その他青少年問題協議会、予算が含まれていゝわけでございます。

四七ページ二目児童措置費で本年度九十万三千円、増額にわたっておりますが、ニハ措置費の基準改定によります増額でございます。

大体延三千八百人、二千二百九十円で八百七十万という額にかります。

四八ページ生活保護費、生活保護総務費で五十九万五千円。ニハ前々福祉事務所、職員、人員費が入って参りました。

五〇ページ二目の扶助費七百一十六千円、増額となつて
おりますが、これは生活保護法、基準改定により、
増額分でございます。

四項災害救助費、これは存目程度でございます。
以上です。

(厚生課長 吉田耕一君登壇)

厚生課長(吉田耕一君) 衛生費につきまして中説明申し上げ
ます。

予算書の二二ページ、衛生費の総額でございますが、保健
衛生と清掃費の二項に分けまして、保健衛生費に
つきまして千四百六十六万四千円、清掃費におきまして
二千百六十五千円、合計三千五百七十三万三千円、お願
いというものでございます。

保健衛生の総務費といたしまして、六百九十一万八千円

こゝおもなものといたしまして十五節の工事請負費でございますが、大華場におきまして飲料水の不足というふうなことからしまして水道を敷設いたしたい。こゝうに考えるものと現在あそこに従事しておりますが、宿舎が老朽化して雨漏りがひどいというような関係わらいたしまして、現在待合所を依つておるわけでございます。そこで、この座敷になつておる関係から待合所を土足で入るやうな待合所にいたしたい。こゝうに考えまして、この工事費三十九万程度見込んでおるわけでございます。次に五十二ページ十九節の負担金、交付金等でございますが、こゝは大体前年を踏襲したわけでございます。特に郡市医師会や付属検査センターの負担金をとりあえず、本年度二百万円計上いたしまして支出していただきたいというものが大きな数字でございます。

他の総務費につきましては、それに必要な経費を計上してある次第でございます。

次に予防費でございますが、予防費につきましては四百六十万八千円でございますが、特に昨年と大したかわりはないのでございますが、委託料百五十四万円でございます。結核健康診断の委託料というものが果う指導によりまして従来より以上う結核診断をいなくとはいけないというふうなことからいたしまして医師その他雇上げ委託にありますが、相当額ふえておるというふうな現状でございます。他につきましては、特に人員等の関係からいたしまして十八節に備品購入をお願いしたわけでございますが、今までの手おし式な噴霧器程度のものでは、動力を使用するエンジンダスターというものによりまして、人手を省いて能率を上げていくということから十五

万八千円を計上したものでございます。

次、清掃費におきまして二千百六万五千円。このうち清掃
総務費といたしまして五百四万六千円。このにつきましては、
特に変わった支出はございませんので、説明を省かせていただ
きたいと思っております。

塵芥処理費で千二百三十八万九千円。このにつきましても
特に変わったことはございませんが、十八節の備品購入という
ことで今後ゴミ等の増大に伴います自動車、購入とい
うものが大きくなってございます。

十九節の負担金、補助及び交付金でございますが、現
在実施しております容器収集の關係でございまして、
現在大体四千六十世帯程度を容器収集して能率
化をはかっておるわけでございますが、これを継続いたしま
して、三十九年度に残り三千八百を想定しております。

が、その程度う世帯を中心として容器収集に切りかえていくというふうなことからいたしまして購入の補助といたしまして百四十万内をお願いしようというものでございます。次に三目押し尿処理費で三百六十三万円計上したわけでございます。

このにつきましてはいし尿処理場処理費等の関係で必要な経費を一応見込みましてここに計上した次第でございます。なお以下人件費等につきましては、秘書課長さんの方から説明が済みましてはぶかせていただきます。

明細書の二六ページの四款の衛生費というそばに保健衛生費、清掃費、給与関係の明細がございますので、ご覧いただければ結構だと思います。

以上でございます。

(建設課長 新井重助君 登壇)

。建設課長（新井重助君）労働費本年度八百七十四万四千円計
としてございます。そのうち失業対策事業を併し説明申
し上げます。

本年度失業対策事業は六百五十二万一千円でございますが、
そのうち総務費、これは対策事業を行ないます関係上、
それに伴う人件費でございます。その中の十四節使用料
四万円でございますが、これは失業対策事業に携わって
おります人夫のレクリエーション、自動車、借り上げを考
えております。

一般失業対策事業四百八十六万一千円でございますが、
本年度は就労人夫の縮小によりまして一日の就労者
が八人程度になるもようでございますので、それに基いて
計画を実施いたうてございます。年間、就労人員予
定が二千六百七十二人を予定してここに総額を決定

いたゞてございます。

なお、その中で行なう工事は、舗装といしまして、三軒町海岸線、こゝは三軒町、踏切から下に向かいまして舗装でございます。

二百五十三・五メートル舗装しようというものでございます。その他に舗装といしまして、那古港線、釜屋の角から海岸に至る四百十六メートル、舗装でございます。

道路の改良といしましては、東長田、旧豊房役場から長田の部落に入る道路でございます。一応本年度は百五十九メートルだけやっていきたいと考えております。

その他前年度に引き続きまして、布良、相次港線、こゝを三百二十八メートルやりまして、全体の仕事は改良したいと考えております。その他舗装修理といしまして、市内が悪いところを八幡と大軒町の舗装

の補修をしていきたい。かゝうに考えて二千五百ヘーベールの舗装の修理。その工費が四百八十六万一千円。これを各月に分けましてここに計上してございますので仰了承願いたします。

(農産統計課長 伊藤幸太郎君 登壇)

農産統計課長(伊藤幸太郎君) 明細書の五九ページ農林水産費のうち第一項の農業費で予算額五千十三万円でございます。そのうち農業委員会費の五百六十九万二千円でございますが、これは説明にございますように大部分が報酬並びに取員の給与関係でございます。六ページ農業総務費でございます。この点につきましても説明にございますように農業協力員の報酬と畜産奨励委員の報酬、その他係、取員の給与関係でございます。

次の農業振興費でございますが、三千五百四十三万八千円
の予算でございます。そのうちのおもなものといたしまして
は、六二年度本年度予算で新たに設けましたのが、農
協に対する農業指導、連絡等の委託料、四十万円で
ございますが、これは、市、町、村、農協の合併促進
の一助といまして、各農協に対して、まして事務の連絡
その他の助成といたしまして、一組合五万円、ただし、館山
の場合は、区域も広うございますので、十万円を見込み
まして、四十万円を助成したいということでございます。

果樹園、共同かん水施設、三十四万二千円を新たに本年
度計画いたしたわけでございますが、これは、九重の大井
地区におきまして、梨を含みますところ、畑地かん水を
いたしたいということで、大体三町歩を予定し、まして五
十四万円の事業費を見込み、まして、うち、三か所を助

成いたしたいということでございます。

もう一カ所、郡古地先におきまして、果樹園やかん水施設を予定いたしまして、受益面積六町に對しまして、六十万円、事業費のうち三分の一を助成したい。合計いたしまして三十四万二千円を計上いたわけでございます。

次に農業改善事業三千二百万円計上してございすが、この点につきましては、昨承知の通り三十九年度から実施されます山本、安布里地区の農業構造改善事業のうち三十九年度に実施いたします。区画整理の費用でございます。この点につきましては、法律で定められております関係上、事業の主体が安房中央土地改良区が主体になるということでございます。この事業主体に對しまして三千二百万円を補助の形で出して、そういう形式的には土地改良区が事業を実施

するといふ運びになつておるわけでございます。

区画整理は約八十町歩、予定でございます。

館野地区の農業改善事業、実行委員会補助金五万円、これも今申し上げました事業、遂行上、地元地区の役員会をお願いいたしまして、いろいろ連絡その他関係をお願いいたしたいということでこの委員会に付しまして、五万円、助成をいたしたいということでございます。

次の畜産業費が五十万円、さううち本年新たに加えましたものが、全回豚共進会、出陳に付します報償金でございますが、これは本年の秋に愛知県、豊橋で実施する予定でございます。共進会に付します本市の出陳に報償として三万円を計上いたしました。

次に六四ページ農地費でございますが、この関係は従前は土地改良費として計上されたものがおもなものでございます。

こゝおもなものといたしまして十九節の負担金補助及び交付金におきまして、二百八十七万五千円の計上でございますが、そのうち安房中央土地改良区に補助金、これは市承知の通り安房中央ダムの建設に対する改良区への補助見込みを百七十一万八千円見込んでございます。

次の共同施行補助金六ヶ所分百十三万一千円でございす。その内訳を簡単に申し上げますと、豊房地区におきまして南条の農道に改良、これは九百メートルの農道の改良の予定でございます。その補助額が三十三万七千円、豊房地区の神余の如蔵地区、これは五百メートルでございます。まして、二十二万五千円、同じく神余、又所、二百五十メートル九万四千円、船形地区の農道改良事業といたしまして、六百五十メートルの二十万、九重地区の田村四百メートルの農道に、まして十五万、洲の宮

地区の農道改良三百五十メートルにつきまして十二万五千円以上六カ所を三十九年度土地改良事業のものとして予定いたしました。合計百十三万一千円を計上いたします。

大五ページ、林業振興費におきまして館山市松毛虫防除委員会五万円を計上いたしました。が、これは本年新たに計上したものでございまして、今いろいろ騒がれております。松毛虫の防除対策として新たに防除委員会を組織いたしまして防除の万全を期したい。ということ、それに対して五万円、助成を見込んだわけでございます。

農林関係につきましては以上でございます。

(商工水産課長 長谷川広治君登壇) 一

商工水産課長(長谷川広治君)水産業費として千二百二十五万、

商工費といしまして二千四百十七万三千円のうち千五百十三万余合わせまして二千六百四十万ばかりが商工水産課予算でございます。

明細書の六五ページ水産業費について併説明申し上げます。水産業統務費については人件費でございますので省略いたします。

二目水産業振興費として三百六十六万六千円ばかり計上いたしておりますが、新規事業おまじ項目としては水産振興対策委員会として一万八千円を計上しております。これは市内における水産業の振興ということを考慮いたしまして長期的な計画を考えていくということとで委員会の設置を計画しておりますので、その費用として一万八千円を計上いたしました。

六六ページ委託料として二十万円計上いたしました。これは

最近の漁業の方向がわつておりますので、養殖並びに畜養事業を申発、振興させたいということで、それだけ十五万、五万を計上いたしております。

十九節の負担金の最後に、小型漁船近代化事業、利子ということ、で十萬二千円を計上してございますが、これは、渠が現在実施しておりますので、市は取降まで素通りというふうなことでございましたが、三十九年度におきまして、渠も同様のものを事業費に交付いたしたい。かように考えまして、十萬二千円を計上してございます。

漁港管理費及び漁港建設費につきましては、漁業関係の重要拠点でございますので、重点的に予算を配当いたしました。管理費におきまして、十九節の工事費で五十三萬円、漁港建設費におきましては、工事費負担金におきまして、六十二萬負担金におきまして、船形

漁港・富崎漁港の負担金五百十万円、合わせまして五百七十二万円をもちまして、重点的に工事の施行をはかりたいかように考えております。

水産業費につきましては以上がわかつた点でございまして、あとは前年と大差ございません。

大八ページ 商工関係費につきましては、中規模申し上げます。総務費は人件費でございまして、省略いたしまして、商工振興費として九百四十八万九千円計上いたしました。このうちおもなものといたしましては、十九節に負担金として百七十五千円計上いたしております。

商工会議所補助、小規模事業の改善普及補助として八十万七千円を計上いたしました。これは例年交付してございしますが、会議所におきましては事業予定額の大体五割程度を補助したい。かように考えております。

小規模事業におきましては、国の補助がございます。で、その基準から参りまして、地元負担金程度、七十万程度、本年度交付いたしたい。かように考えて計上いたしました。商店街診断補助金として五万円計上してございしますが、これは、三十九年度におきまして、県が下町を中心とした、また商店街の経営診断をいたしたい。

かように連絡がございまして、で、その地元負担金五万円でございます。

それから最後の方に特産物振興補助金、鉄工業振興補助として、それ、それ五万円づつ計上してございしますが、これは、あまり今まで手づ届かなかった点でございしますが、館山市における特産物、それから下請を中心とした鉄工業の振興をはかっていきたい。こう考えまして本年度計上いたしたものでございます。

二十四節に投資及び出資金として七百万円計上いたしました。
これは中心企業に対する市の予託融資でございますが、
二百万円本年度増額いたしまして七百万円、大体融資の
ウケは三倍でございますので、二千万円の融資をいたしたい
かように考えております。なお各費目にわたりまして若干
市長が触れまいた不燃性店舗の促進につきましても費
用、それから市内の物価に対する対策の費用をそれぞれ若
干づつ本年度は調査・研究するという段階で計上して
ございます。ほかに費目については、大体昨年と同様でござ
います。

(観光課長 小沢正治君登壇)

観光課長(小沢正治君)観光費について中説明申し上げます。
今般の改正によりまして観光費は議決課目からはずさ
いまして商工費の一部として扱われることとなるわけでござ

いまして、予算書が一二ページ、第七款、商工費第一項、商工費の二千四百十七万三千円のうち、第三目といたしまして、明細書の方に掲げてございます。六九ページの明細書によることになさるわけでございます。

観光費につきましては、大体夏の海岸対策を主体といたしまして、通念的には、館山の地名を外に売るという広告、宣伝、そういった関係の重点を置きまして、予算を計上したわけでございます。

明細書、六九ページ、第三目、観光費、以下各節にわたリまして計上されております。ほとんどは、この説明の内容を見ていただければおわかりのことと存じますが、特に変わったものではございません。従前やって参りましたものをさらに強化するために、予算の増額でございます。

特に変わったものはないと思います。七一ページ、十七節、公有財産

購入費におきまして四百万円を計上してございますが、この説明に道路等土地購入費とございしますが、道路等ではなく道路沿線と訂正いたしたいと思います。これは西岬地区の国民休暇村の観光道路の完成に伴いまして、あそこへ道路の沿線線に一応千乃至千五百坪の土地の管理権を確保して将来の統合診断の結果から企画課におきまして計画の立案に当りますところ市の土地管理権ということが大事になってくると考えられます。関係から、あの沿線において土地買収を行なつて参りたいと存するものであります。その他に關しましては宣伝と海岸の無料休憩所、或いはキャンプ対策、そういった関係の経費でございまして、説明にありませんが印刷によつて承^りいたされ^けると思ひますので省略いたします。

議長（黒川佐太郎君）午前の會議はこゝにて休憩いたします。

午前 十一時四十五分

休憩

午後 一時 〇七分

再開

議長(黒川佐太郎君) 午後出席議員数 二十八名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

第八款土木費より説明を求めます。

(建設課長 新井重助君登壇)

建設課長(新井重助君) 薄い方の歳出予算に土木費

六千四百七十八千円、新年度計上いたしました。

その内訳は明細書の方でより説明申し上げます。

七一ページ土木管理費につきまして九百十一万三千円、これは

おもに人件費でございます。その中、十一節需用費の

中に光熱水費四十万、修繕料六万円となっております。

これは街灯も費用でございます。総務費の中に含まれて

いただきまーた。

十五節の工事請負ですが、これは用悪水路の費用でございます。

従来用悪水路という目がございますが、なくなりまーたので、業務費の中に入れてございます。

■二項、道路橋梁費の二千三百十九万五千円、その中の一、道路橋梁総務費、これも人件費でございます。十九節の負担金補助金及び交付金で二十四万二千円、この団体名でございしますが、千葉県道路協会の負担金と土木協議会の負担金、外房道路期成同盟会の負担金、有料道路期成同盟会、負担金、合わせまーて二十四万二千円、これは昨年度は南房州有料道路負担金になつたのでございますが、新年度から入りまーた、道路維持費でございす。千四百三十三万三千円計上いた

しよーた。

賃金二百六十六万七千円、総延人員といなしよーて四千九百四十人を使用する考えでございます。

需用費におきよーて百三十万、こゝは消耗品燃料自動車
うガンリン代、自動車、修繕料四十四万七千円でございます。
七四ページ役務費う二十四万四千円は、道路補修に使います
砂利、運搬費と保険料その他でございます。

十五節工事請負費は、本年度四百万円でございよーて
昨年度に比しよーて六十一万減となつておりますが、昨年度
は、こゝ中に橋梁のかけかえ費等も含まれておりしよーた
うで、実質においては、百万円以上、増加になっております。
こゝによりしよーて、測溝、道路一般の補修に充てるつも
りでございます。

原材料費五百四十六万三千円、こゝは、道路維持に用い

ます砂利・碎石その他資材購でございまして、昨年度より百六十万上げまして、万全をはかりたいとかように考えております。

次の道路新設改良費六百七十四万七千円計上いたしております。

この中で行ないます改良工事といたしまして、田村、竹原線、田村地先百五十九メートルの長さの改良工事一カ所、三軒町海岸線、静海荘の前から海岸の道路に接続いたします前年度に引き続きまして行ないます事業でございします。百三十九メートル施行いたしまして、あそこの交通緩和に資するわけでございします。

百三十六号線といたしまして百二十九メートル柏崎から海岸に向かつてあります道ですが、これを百二十九メートルやりまして、あとは次年度に行ないたいと思ひます。

その他は舗装でございますが二百二十五号線といなし
ヨ―て船形十字路から堂の下の方にいく道路でござ
いますがいゝを二百メートル舗装いたします。

大軒町南町線一カ所商工会議所の脇からヨリヨ―て
南町に通ずる道路、途中から分岐ヨ―て高井證券
の前に出る道路、こゝが延長二百六十メートルでござい
ます。それから百八十九号線ヨ―て長須賀、東京電力角
から測候所の間二百六十メートルを舗装いたします。
以上五カ所の道路工事をいたしまして、ここに六百七
十四万七千円を計上いたつてございます。

この事業のうち改良工事は請負ヨ―て舗装工事
は直営でやります関係上、各節に必要な費用をここ
に分割して記載いたつてございます。

次の四目、橋梁維持費でございますが、百十万一千円で

いたします。

この中で工事請負費といしまして百三万円、この事業は茅野にございます新橋、これは橋脚が幅が狭いので塵芥がかりまして橋脚が毎年流れるということ、本年度は中央の橋脚を三脚修理いたしまして二脚とするということ、ここで二に計上した次方です。その他岡田にございますせきめん橋以上二橋を修理いたす関係の費用でございます。その他人夫等若干計上してございますが、これは橋を立ちこちて修繕する必要でございす。

七六ページの橋梁新設改良費でございます。三十九万九千九百五十円でございます。二号橋、これはササカエの賞、三十九万計上いたしたうででございます。

次、三項、河川費、河川統務費のうち、二十八万一千円、お願いするんですが、このうち工事請負費として二十万

計上してございますが、これは船形うどん川、護岸
工事を引き続いて計施行していきたい。

次の負担金は説明の通りでございます。

四項港務費、一、港務管理費三百十九万九千円を計
上してございます。

十五節 工事請負費五十五万円は、那古、船形、北条、
橋が痛んで参りまして、一、館山棧橋を維持補
修いたしたい。かように考えて五十五万計上いたした。

十九節 負担金補助及び交付金のうち、三百三十三万
八千円、このうち、館山港修築事業といたしまして、
百万円の工事費を見込みまして、その三割といたしま
して三百三十三万円の負担金を計上してございます。

その他は千葉県港務協会の負担金、日本港務協
会の負担金をそれぞれ計上してございます。

次の五項の都市計画千五百二十万円、お願いする次でござ
います。

都市計画総務費におきまして百三十四万四千円計上いたしま
したが、これはおもに人件費でございます。その他若干
需用費がございますが、これは説明によつてご了承願ひ
ます。

次の七ページの街路事業費五百六十万円の内訳でござい
まして、十五節の工事請負費におきまして三百十万円計
上してございます。

これは大神宮に宮前橋がございまして、これが相当痛みまし
て昨年にはけが落ちるとういうようなことがございましてた
で、本年度是非これを改良していきたいという考えでござ
います。鉄骨コンクリート構造にいたしまして、サケかえ
ていく。負担金及び交付金でございまして、二百五十万円

海岸道路の舗装工事に要します費用のうち、市が負担金として二百五十万円、工事の大半は船形からやるといふ陳情しておりますので、船形からやります。本年度千五百万円を見込みまして、その六分の一をここに計上した次第でございます。

次に都市下水路で二百二十万円、その内訳は十五節の工事請負費において二百十九万円、その他一万円でございしますが、これは昨年に引き続きまして千葉銀行の下から入ります排水路が非常に悪くて例年駅前あたりで排水するということで昨年度に引き続きまして今年度二百二十万を投じて、排水路の完備を期したい。踏切の下方は六十センチの下水管を用いて潮入りに放水する。これによりまして駅前が滞水が解消するものと考えております。

次の公園費におきまして五百八十七万六千円計上いたしました。
工事請負費におきまして百五万、その内訳は北条海岸の
雑草が繁つて非常にきたなくなっておりまして、その造
成整地事業でございますが、それと休憩所が二年ばかり
修理いたしませんので、その修理費とあとは那古山、城山等の
ベンチまたか、便所等の修理費でございます。

七節の貸金三十万円は、城山とか各公園の清掃人夫賃
をここに計上いたしております。十九節の負担金四百
五万、このうち国定公園、見物地先の国定公園事業の
遂行のために三百万円の事業費の三万一千をここに計上
してございます。

次の公園整備事業費負担金百五十万円、これは城山に展
望台を作りますので、一応三万一千でございますが、果ては
予算がまだきつませんので、三百万円を予定いたしま

して百万円をここに計上してございます。

あとの五十万は北条海岸におきます道路の脇に依っておりますグリーンベルト地帯の造成事業が一応百万円という線が考えられようであります。そううち二分の一の負担金として五十万円のものをここに計上いたしました。

次う住宅費でございますが住宅管理費は人件費に伴ういろいろの関係、これは省かせていただきます。

八〇ページ住宅建設費におきまして千二百三十六万円本年度お願いするのですが、これは大賀地先に建てております住宅の本年度分といたしまして第二種住宅木造平屋建てでございます。九・五坪のものを二十戸建てようになっております。これはよりまして大賀地先の上

地買収地に全部の戸数が割り当てられたいということでございます。その費用が千二百三十六万円でございます。

て、各節には、その必要事業の費目を分けてござい
すが、総体事業三千二百三十九万五千五百五十
円の説明は省略させていただきます。以上でございます。

(消防署長 岩田 実君 登壇)

消防署長(岩田 実君)引き続きまして消防費の説明を
させていただきます。

一三ページ九款消防費でございます。総額四千二百六十
五万計上をしております。

説明書は一頁でございます。前年度と比較いたし
ますと、五百三十二万円の増となっております。な
お、財源の内訳を申し上げます。国庫補助八十万
円、起債二百万円、繰越金三千九百八十五万円と
なっております。

第一目、常備消防費、これは消防本部並びに消防署
の費用でございます。三千二百三十九万五千五百
五十円、前年度と

比較いたしまして、千九十九万八千円増になっております。

これは主として人件費、その他増加によるものでございます。
八二ページ、七節の賃金十五万でございますが、これは自動車
整備工場が間もたゞ充足する予定でございます。この整備
備技士の賃金といたしまして、とりあえず十五万計上をし
ていただきたいと思います。

報償費、旅費、交際費、需用費は、昨年とほとんどござ
いせん。

十五節工事請負費でございますが、これは館高前
貯水槽の整備、富崎分遣所の望楼、ホース乾燥台の新
設、詰所の整備、こういったものを行なう予定で六十万
計上をしております。

十八節の備品購入費で百三十五万円でございしますが、こ
れは、条例に基づく消防取員、被服購入、ホース、その他

の備品購入費でございます。

十九節の負担金補助及び交付金でございますが、七万金
消防協会とございますのは消防長会の負担金の誤りで
ございます。おわびいたします。

二百非~~常~~常備消防費でございます。消防団費でござい
まして四百七十六万五千円でございまして、前年度と比較いた
しまして若干の増になっております。

第十九節の旅費六十二万六千円でございますが、これは消防
団の災害出勤、或いは敬告式関係の費用弁償、そういう
った費用弁償を負担しておるわけでございます。前年と
大差ございません。

備品購入費百五十二万六千円、これは前々から消防団の方で
強い要望がございまして団員の盛夏略衣四百九十八人分金
額にいたしまして百万円を見込んでございまして、それから傍

受機、これは昨年四月う困う改変によりまして幹部がふえておるわけでございますが、こう方たちに無線う傍受機を備えていただきますために二十一個、これは団幹部うほかに農協にお願いたしまして早く火災発生を知っていただいて有線で流していただくということで、無線傍受機二十一個を予定しております。

一九節負担金補助及び交付金でございますが、こううち消防協会館山支部交付金三十三万円、これは昨年より三十三万円う増でございます。

果実済基金納付金十六万四千円、これは消防団員所遇改善というふうな目的から、本年の四月一日発足する定で千葉果消防団員退取報償基金が設立される予定になっておりまして、この納付金といたしまして十六万四千円計上をしております。

第三目の消防施設費でございますが、五百五十八万円計上いたしました。

こゝ十五節工事請負費、二百五十八万円の内訳でございますが、これは、有蓋貯水槽一、無蓋貯水槽入横穴式一、川止め一、これを予定しております。

十八節の備品購入費でございますが、これは、三百万円でございます。こゝで消防署の中型消防車購入費、百七十万円、それから現在まだ装置してございません車両に装置するため無線機三台購入いたします。これは九十万、それから消防団の方で可搬動力ポンプを積載いたします。中型車四十万円、これを見込みまして、三百万円計上しております。以上概略でございますが、説明を終わります。

(庶務課長 干場伊右エ内君登壇)

・庶務課長(干場伊右エ内君)教育費について、説明申し上げ

ます。予算書の一三ページ穿ち款教育費で一億七千百七十五万四千円について中説明いたしたいと思います。

説明書の八五ページ第一項教育総務費で千三百二十万三千円でございます。こゝ内訳をいさしきりては第一目教育委員会費、二目事務局費、こゝは今まで教育委員会費になっておったものを今度二つに分けたものでございます。

第一目教育委員の報酬、文際費は前年通りでございます。二目事務局費は千二百七十二万三千円でございます。こゝで、教育長以下、十五人の給料、その他手当、教育委員会事務局に要する需用費関係でございます。特にこゝで新しいものといたして十三万、委託料でございます。こゝに十九万計上しております。小中学校の研究委託関係が九万、言語障害児の研究委託、こゝが六万

円特殊教育研究関係が四万円でございます。

二項の小学校費でございますが、四千三百十八万円計上いた
—ま—た。

そのうち第一目学校管理費でございますが、六百八十八万
九千円、これは、校医等、報酬及び小使い等給料、いろいろ
の手当、共済費等でございます。八八ページで節費金
で百三十七万四千円を計上いたしま—たが、これは那古小、館山
小、富崎小、豊房小の各給食関係の給食婦の雇上げ
十二人分でございます。

二目教育振興費で千三百十一万一千円をお願いいたしまし
たが、このうち八八ページ十八節備品購入費のうち学力向
上機械器具費、百四十六万円とございますが、これは小学
校の各校にミニクロスacksを購入して学力向上に資し
てもらいたいというものでございます。

三目、学校建設費、二千三百十八万円計上をいたしまして、工事請負費で総額二千六十六万円でございます。その内訳は、神戸小学校今年分として二百四十坪予定いたしまして千九百二十万円、それに取引のし料、三十六万円を加えまして千九百五十六万円でございます。

これは二年う継続事業でございます。来年度には残り千百万円をもって完成する予定でございます。

次は、東小学校の三十万円、これは校舎の修理でございます。

船形小学校、玄関及び管理室の建築でございます。約十坪を予定しております。その他に電気工事といまして、三十万円、これは小学校にシンクロアックスを備え付け、関係上、コンセントが必要になって参りますので、その関係の費用でございます。

次に九ページ三項、中学校費でございますが、三千四百十三万三千円をお願いいたしました。一目で二百七十一万八千円、これは、学校管理費でございますが、校医の報酬、それから使丁の七人分の給料、手当、共済費等でございます。二目、教育振興費でございますが、千二百二十五万円を計上いたしました。

これは大体、需用費、備品費等でございまして、大体前年同様でございますが、ただ去年は中学校はシンクロックスを七十七万円で購入したのでございしますが、今年はその分はありませんで、その分だけ需用費で増加しております。

次に九ページ、学校建設費でございます。

本年度千九百十六万五千円を計上いたしましたので、十五節の工事請負費でございますが、これで千八百四十三万円、その内訳は四中、二百坪を鉄骨で作りまして、その費用千

百万円・それから取りこわし料十三万円を見ヨ―て千百
三万円を予足―ております。

一中の技術科室でございしますが、こゝが、百坪四百五十万円、
それから神奈中學校のプール二十五メートルの十二メートル
でございヨ―て、こゝが二百五十万円でございます。

次に四項、高等学校校費で六千十三万五千円をお願いしま
す。

まず、一、高等学校校務費で三千百一十一万三千円、これは
大体校医、それから校長、教諭、その他取員の関係の
人件費でございます。

九三ページ二目、全日制高等学校校管理費でございますが、
これは、学校の需用費、関係でございます。

九四ページ十八、節備品購入費でございますが、こゝうち、

工業課程の設備費八百万円、これは化学工業科、電気

科の設備購入費でございます。

机、腰掛等購入費、これは新年度新しく入る生徒の机、腰掛の購入費でございます。

工業課程の図書購入費、これはやはり化学工業科、電気科、図書の購入費十萬二千円でございます。

次は、三目、定時制高等学校の管理費、百五十二萬二千円をお願いいたします。

これは定時制課程の需用費、備品費等でございます。昨年と大体同じでございます。

九五ページ、四目、学校建設費、千六百四十八万円を計上いたしました。

ここで大きいものは、十五節の工事請負費、千五百八十八萬一千円でございます。

これは水造校舎が百八十坪、八百十万円、鉄骨の各工業

科の実験室百十坪、これは六百五十万円、渡廊下十九万八千円、便所十万円、その他電気ガス等、設備費でございまして百四十三万を見てあります。

十七節の公有財産購入費でございしますが、これは市役所の敷を下つていったところに国有地が八十八坪残っておりますが、現在埋め立てをしておりますがまだ購入しておりませんので、この購入費二十六万四千円でございします。

幼稚園費で千五百四十一万円を計上いたしました。これは校医の報酬幼稚園の先生、二十九人、それから使丁二人の給料、その他のもう及び各幼稚園経営上必要な需用費その他でございします。以上でございします。

(社会教育課長 利田正男君登壇)

社会教育課長(利田正男君) 教育費中、社会教育費、保健

体育費について、説明申し上げます。

明細書九七ページでございます。

第六項社会教育費、四百四十四万八千円計上。前年度に比べて二万一千円減となっておりますが、これは文化財関係の公有財産購入費が三十八年度に盛り込んであった関係でございまして、内容につきましては、多分の増になっております。

一目の社会教育統務費の中で、報酬の中に十二万五千円の中に過日議決していただきまして文化財審議委員の報酬が三万二千円加わっております。それ以外は、十三節の委託員文化祭の委託料三十五万お願いたしました。

昨年より五万円多くしてあるわけでございまして、三十九年度は体育部中心の文化祭を南催いたしますので、オリンピックの年でもございすしという含みがここに数字と成って表わしたわけでございます。

あとは三十八年度の予算と大差ございません。

青少年健全育成の方も何とか拡充していきたい。そういう形を予算でございします。

第二目 公民館費でございしますが、これはほとんど三十八年度と同じものでございます。

第三目 図書館費 百二十万五千円計上してございしますが、比較の棟で四十一万三千円減となっておりますが、これもこのたびの予算の形式によりまして人件費を総務費に移したため減でございまして、ローページの備品購入費の中に図書その他十万円増という予算を盛らしていただいております。

婦人会関係はほとんど前年と変わりございません。

十一項の保健体育費 百十八万五千円、保健体育総務費の報酬というものは初めてでございまして、昨日の

議決の中にありますが、体育指導員報酬二千円・年額でございしますが、十五人ということでございます。

ほかに目立つたところは十八節の備品購入費十七万円、これはプールの役員席が木造でございまいたうをこわして、いまいまいたうでテントを購入すること、それからバレー用具を買いたい、そういうような考え方でございます。

これは体育指導員が果から、選定された方々をそろそろ出ておりまいたうで、全然動きがございせんていたうで、三十九年度の改選を機にしてスポーツ人ロの底辺を広げたいという気持ちで報酬を作り、なおバレー用具とかそういうようなものを市内にアマチュアの人たちの中に持ち込んでスポーツの振興をはかりたい。

そういう面で、予算を計上させていただいております。大体かわったところは以上でございます。

(総務課長山口実君登壇)

・総務課長(山口実君) 予算書一三ページ公債について二千四百四十三万七千円について、説明申し上げます。

説明書一〇三ページ今年の公債費総額において前年より四百八十八万五千円増加して参りました。その多くなつた内容は、元金償還金のところ、衛生費八十八千円、次に利子一〇四ページ教育債の四百七万、こういったものが昨年よりふえた関係上、このような差額が出たわけでございます。この内容については、了承いただきたいと思います。

次に予備費の二百万円でございますが、これは前年並みに二百万円お願いしようというものでございます。

歳出合計六億五千六百二十九万四千円。

次に歳入に入ります。

今年度歳入は従来とかわった点は、性質別に款項に分け
まゝで、款項でもって予算を止めたことでございます。

市税は二億三千五百四十六万六千円について、併し説明申し
上げます。

市民税で六千四百九十六万七千円、固定資産で九千
八百九十一万、軽自動車六千九十九万、たばこ消費税で三千
九百三十九千円、電気ガス税で千五百一十一千、木引税で
五十六千円、入場税五千円、都市計画税で千四百七十四
千円でございます。

都市計画税でございますが、ただ今説明しよろしく歳出の
財源内訳は、その他の中に入っております。

旧法による税一万四千円以上合計額が二億三千五百四十
六万六千円、市税の収入でございます。併し説明書によ
り、この額は、調定見込み額でございます。それに対する

掛ける額は、おおよそ徴収率を示したものでございます。

次に国有提供施設等所在市町村助成交付金二百八十万になつておりますが、これは、昨年度の実績二百八十三万を、一応参考にいしまして本年二百八十万計上いたしました。

三款地方交付税一億五千万計上いたしました。三十八年度の普通交付税の実績が一億四千四百三十八万五千円でございますので、一応三十九年度に考えらるる地方交付税は、給与ベース、こういったものが本年年度改正された関係上、当然一億五千万位の交付税があると予定いたしました。次に四款の分担金五百四十九万一千円について申し上げます。

この分担金は歳出にのみあります。その他、財源に全部計上されてゐる性質のものでございます。

歳出で出てきた事項でございしますから、説明書によつて

作了承いたできます。

次に五款使用料及び手数料二千八百四十三万五千円で
ございます。

その内訳は使用料二千百三十一万、手数料七百十二万二
千円、これもやはり歳出の財源内訳のその他の部に入つて
くる収入でございます。

説明書の一ページでございますが、訂正願います。

高等学校使用料でございますが、定時刻生徒一人月額
八百円掛ける九百三十人とあるものを月額二百五十円掛け
る三百三十円掛ける十二、二のように訂正いたします。

次に八ページ国庫支出金、説明書の一二ページ、本年は、国庫
支出金、統計五千九百五十万前年度と比較いたしまして
約五百十七万八千円、程度増加になっております。こゝら
の国庫補助金は歳出で説明さへいた各款の国及び

果ては支出金に組まふ各事業で説明さるゝ。

説明書には、おのゝ單価とか学校数、負担割合が計上してございますからその事項によつて作ら承いたいただきます。

第七款 果ては支出金 予算書が八ページでございます。

果ては負担金で三千八百十五万八千円、果ては補助金二百二十七万四千円、果ては委託金二百七万四千円、こゝろの合計四千二百五十万二千円でございます。

説明書が十五ページ果ては支出金でございますが、こゝもやはり歳出のところで国及び果ては補助金でもつて一般歳出に入つたものでございまして、おのゝ事業の歳出のところで財源内訳によつてすでに説明さるゝものでございまして、この説明書が付記の内容によつて作ら承いたいただきます。

次に財産収入でございまして、百五十五万一千円でございます。

説明書の二〇ページ今年特に多くなったのは、星見氏居城復元
基金の償還金財政調整積立金といういたものが前
年より約九万八千円の増になっております。

次に第九款寄付金、千七百万四千円について申し上げます。

説明書の二〇ページ寄付金の中で三節と四節を訂正
いただきます。寄付金の「寄」の字が「基」になってありま
すから訂正いただきますと思います。

千七百万四千円につきましては、説明の内容によって千了
承いただきます。

第十款繰入金、基金繰入金でもって七百万円、出資
金繰入金でもって八百五十万合計千五百五十万となって
おります。

基金繰入金の七百万円について訂正説明申し上げます。

この七百万円は、財政調整積立金の中から四百万円、

里見氏居城復元資金から三百万円、これを一般財源に繰り入るようとするものでございます。

次に出資金繰入金でございますが、八百五十万、これは中小企業預託金で七百万円、勤労厚生預託金で百五十万でございます。中小企業預託金でもって前年度より二百万円多くいたしまして。

次に繰越金説明書う二二ページ、本年は二千七百万円程度考えまして計上したものでございます。

諸収入におきまして、二千二百四十万八千円、延滞加算金で二十一万一千円、預金利子で二百万円、収益事業収入で十七万八千円、雑入で五百二十一万七千円、延滞加算金でございますが、二十一万一千円、昨年と比較いたしまして四十一万一千円、減少しております。市預金利子でございますが、預託金が入った関係上、約六十万程度の利子

がふえると考えまゝで一応二百万円計上いたしました。

収益事業でございますが、競輪の収入が主でございますが、昨年の実績を勘案いたしまして千七百万円前年度と同じになっております。雑入でございますが、おろむの付記によつてゆ了承いただきます。

次に十三款市債でございます。本年度の市債の合計は三千五百万円でございます。衛生債で二百万円、農林水産で三百万円、土木債で六百万、消防債で二百万、教育債で二千二百万、こゝらう内訳は説明書の二四ページの説明の内容によりましてゆ了承いただきます。

議長(黒川佐太郎君)以上で議案第五号一般会計予算案の説明を終ります。

暫時休憩いたします。

午後 二時十七分 休憩

午後 二時四十五分 再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
一般会計の第二表第三表の説明を求めます。

(庶務課長 干場伊右エ内君登壇)

・庶務課長(干場伊右エ内君)予算書の一四ページ第二表の継続費でございすが、歳出の説明のときに申し上げようが、神戸小学校関係の継続費でございします。

総額三千二百六万三千円、三十九年度で二千百六万四千円、四十年度で千百万三千円でございますが、昭和三十九年度二千百六万円の内訳といなしましては、設計委託料百五十万円、これは説明書の一八九ページにあります十三節委託料、そ

いり工事請負費二千六十六万とありますが、その中に千九百五十六万円含まれております。それを合わせまして二千百六十万でございます。設計委託料も二百四十坪分を三十九年度に計上いたしました。残り百三十五坪を千百万三千円で継続事業として施行する次方でございます。

神戸小学校二百四十坪千九百二十万円の取りこわし料三十万円の加わりまして、千九百五十六万円でございます。

(総務課長山口実君登壇)

・総務課長(山口実君)予算書の三表についてや説明申し上げます。地方債については従来予算外でもって審議許可をいただいておたうでございすが、今回政令の改正によりまして地方債等も予算の中に含めて審議する。このように改正の仕方でございます。この趣旨によりまして起債の限度額、起債方法、利率、償還方法、こういう事項を議会に議

決をお願いする。このように定めてミニト計上いたしました各事業に対する限度額、限度額すなわち予算額になるわけでございます。ここにふる起債額をお願いしようとするものでございます。よろしくお願いいたします。

議長（黒川佐太郎君）次に議案第六号乃至第十二号の特別会計予算案の説明を求めます。

人件費は各会計を隔て一括して秘書課長より説明いたします。

（秘書課長 小倉澄男君登壇）

・秘書課長（小倉澄男君）館山市の特別会計につきまして人件費を一括説明させていただきます。

総額におきまして給与合計額が二千五百九十六千円、共済費が百三十八千円、合計二千九百三十四千円でございまして昨年に比しまして四百八十四万五千円増となっております。

おります。これは一般会計におきまして、中説明申し上げました。ベースアップによるもの、なお一歩アップにすぎます。増加額と並び期末手当、暫定手当、勤勉手当、こういうものがベース改定によりまして、改定によりまして、起るよう、増加の額でございます。以上でございます。

(厚生課長 吉田耕一君登壇)

・厚生課長(吉田耕一君) 議案第六号特別会計公益質屋について、中説明申し上げたいと思います。

歳入歳出予算の総額につきましては、三百七十六万八千円を計画したわけでございます。まず歳出から申し上げます。総務費におきまして、七十三万三千円を計上したわけでございます。ですが、大部分、この経費につきましては、運営上、管理に必要な人件費、その他、経費を昨年に準じて、計上した次第でございます。

細かい点は説明書の節の説明の補で承承諾いただ
きたいと思ひます。

二款事業費でございすが、これは昨年と比較いたし
まして十九万九千円を減を見ておるわけでございますが、
現在の貸付状況もきわめて不振なような状態をな
どっておるというが現状でございますが、一応この程度
減額を見まして本年度二百四十万^千円を計上いたした次
オでございます。

次う公債費で償還時期にも入っておりますので本年
度三十四万五千円を計上いたしました。元利とも償還に
入っていきなさい。このように考へる次オでございます。

次う予備費で三十一万九千円を計上いたしました。歳出
合計三百七十六万八千円を計上いた次オでございます。

次に歳入におきまして貸付金の元利収入でございますが、

一応昨年よりひかえめに見なわけでございます。三百七十六万二千円を計上しなわけでございます。

貸付金や収入といひまして二百四十万程度、在庫の繰り越し収入を大体百万程度に見積つたわけでございます。そして利子収入等を合せまして三百七十六万円を計上しなわけでございます。流賃物や収入等については、一応存目程度を計上いたさしてもらつたわけでございます。

その他財産収入繰越金雑収入というふうなことにつきましては、一応存目程度を計上していただいたわけでございます。一、歳入合計三百七十六万八千円というふうにお願ひいたしたい。こゝように考える次ででございます。

なお明細書の二ページ地方債や現在高及ぶその他、当該年度の見込みという調書をここに計上してございすが、これはこゝのように現在なつてゐる。また当該

二 食 口 市 議 会
年度におきます年度末の現在高が六十三万四千円
になるうだというふうに見込んでおる次才でございます
でやう承願いたしたいと思います。以上でございます。

(保険課長 池田亮山君 登壇)

・保険課長(池田亮山君)議案第七号「国民健康保険の
予算案につきまゝて」の説明申し上げたいと思います。

国民健康保険の予算案といひまゝて歳入歳出予算
の総額でございます。事業勘定におきまゝて九千七百
九万六千円、直診勘定におきまゝて千二百四十一万一千
円、合計一億九百五十九万七千円を計上してございます。

事業勘定におきまゝて、前年度に比較いたしまして
千百八十八万九千円、直診勘定におきまゝては七百
二十九万五千円の増でございます。合計いたしまして
前年度に比較して千九百十八万四千円の増でございます。

ニハ三十九年度の予算のあらまゝでございます。

次に第二条でございますが、これは地方債の限度額、議決をお願いするわけでございますが、直診施設の改築、移転整備に要する費用のために起債を起こしましてこの事業を完成いたしたい。かように考えます。

第三条ニハ一時借入金、最高限度額、議決をお願いするわけでございますが、保険給付費等の支出に充てるために現金の操作上、一時借入金として、最高一千万円程度の議決をお願いするわけでございます。

次に第四条でございますが、これは教内流用の範囲の議決をお願いするわけでございます。

次に第一条、歳入歳出予算案の各款につきまゝて、説明申し上げたいと思ひます。

まず、事業勘定歳出から、説明申し上げます。

第一款総務費でございますが、本年度の予算額は、千二百七十六万九千円でございます。

前年に比べ、一十八万八千円ほど増となっておりますが、そのうち、ものを申し上げますと、給与改定によるものが、増が、おなじものでございます。

なお、一三六ページ十九節負担金補助及び交付金で、四十八万九千円ほど増となっております。これは、千葉県国保会館建設資金の負担金の三十八万六千円が、おなじものでございます。この二つが、第一款のおなじ増加の原因でございます。その他につきましては、おなじ、前年同様、ものを計上してございます。

次に、第二款の保険給付費でございますが、これは、いわゆる医療費の支払いでございます。

本特別会計の主な予算科目でございます。

三十九年度は八千五百八十八万三千円、計上でございます。
前年度に比ベヨ―て千九十五万三千円、増でございます。
こゝ内容につきヨ―ては別にプリントヨ―なもので、う
ちほど詳しく中説明申レ上げたいと思ひますので、一応、
こゝ款につきヨ―てはこゝ程度に止めます。

三款の保健施設費でございますが、百六十三万二千円、
計上でございます。

前年に比ベますと、十三万一千円、増でございますが、こゝ増
も主として人件費の増、その他各節に若干ずつの需
用費、その他等の値上り等を見込ミヨ―と、とりなてて
申し上げることもございませぬ。

次に四款の基金積立金でございますが、これは存目でござ
います。

次の公債費、五万円の計上でございますが、これは前年と

同様でございます。

一時借入金と利子を見込んでおります。

第六款の諸支出金でございます。六万一千円、四万九千円ほどの増額をいたしておりますが、これは保険税の還付金並びに償還金の利子いわゆる還付加算金でございます。

予備費で百万円、前年同様、計上でございます。以上が歳出のあらましでございます。

歳入につきまして申し上げます。

第一款の国民健康保険税でございますが、これはうちほど市審議願います。保険条例の改正とともに三十九年度から国民健康保険税として税制度に改めることになるわけでございます。

国民健康保険税は、現年分として一款の国民保険税、そ

いから、過年度の繰越金につきましては、二款の国民健康
保険料に計上したものでございます。

第一款の国民健康保険税におきましても、別に参考資
料がありますので、療養費とともに市説明申し上げたい
と思います。

第三款でございますが、一部負担金でこれは、存目でご
ざいます。

第四款の使用料及び手数料は、三万一千円、前年同様で
ございます。

第五款、国庫支出金、四千七百五万九千円、計上でござい
ます。前年と比較いたしますと、七百八十七万九千円ほど
の増加でございます。内訳を申し上げますと、一、事務
費負担金、国民健康保険事務に対しまして、国
の補助金でございます。

ます。

二節の過年度事務費負担金、これは存目でございます。
二目療養給付費負担金、これはやはり、国庫負担金
でございます。療養に要する費用の百分の二十五が、
交付されるわけでございます。

現年分といまして、三千二十六万六千円を計上して
ございます。

次に国庫補助金でございますが、この補助金は千二百
四十八千円、内訳を申し上げますと、保健婦補助金
十九万円、助産費補助金が二十五万二千円、助産費
の補助金は助産費を支給しております場合に二千円
の三分の一に相当する額を国庫補助として交付するとい
うことでございます。次に三日数政調整交付金
でございます。

これは、国保財政の調整をはかるために交付されるものでございすが、この中に普通調整交付金と特別調整交付金と二色あるわけでございます。

特別調整交付金として九百七十九万九千七百十円、普通調整交付金といまして二百二十五万二千五百六円を見込んでおります。これもプリントで別に参考資料に記載してございますので、うちほどや説明申し上げたいと思っております。

次は第六款の県支出金でございますが、十四万円計上いたしております。

これは前年とほとんど同様、額でございます。

七款の財産収入でございますが、この十五万八千円は、当市で果連合会に診療報酬を支払い預託金として預託しております。三百四十九万に對するいわゆる利子でございます。

次に寄付金繰入金についても存目でございます。

十款、繰越金五百万円計上いたしまして前年同様でございます。

この繰越金で申し上げておきたいのは、前年度千百万円あまりの繰り越一を得ておりますが、三十八年度現在見通一いたしますと、五百万円ぎりぎり程度ではないか、こういう見通しでございます。

当予算には見込まれる金額を計上してございます。

次、十一款の諸収入で三十一万円を計上してございます。

前年度に比較いたしますと、十六万五千円程度増とな

っておりますが、内訳は、延滞金が若干、前年度よりも

多めに見込んでおります。これは徴収が二課に移管

いたしまして、今までやっておりまして保険課で取り扱

いまして徴収よりも相当の成績をおさめてきております。

ので、そういったものを加味いたしまして見込んでいただいております。以上で事業勘定があらまゝをやり説明申し上げたわけでございますが、説明を残しよりプリントで療養給付費の算出基礎のわりゆく第ニ款の保険給付費の算出基礎でございます。八千五百十八万三千円計上いたしより積算の基礎を一応プリントしたものでございます。昭和三十九年度の保険給付費見込み額を算定としてプリントしてございます。

最初に療養給付費でございます。療養給付費と申しますのは、被保険者がお医者さんにかかりますと、それに充てます経費の積算でございます。いわゆる病室に対して医師の現物給付と申します。そういう計算が療養給付費と申します。まず、総医療費の積算をしますわけでございます。市承知のように一点単価は、

十円でございます。すべて今々医療計算は一点算価で計算してあります。そこに一人一人が一回かかったときにどの位も点数が平均しているかということでございます。それが百四十二・五倍でございます。これを金額になおしますと千四百三十五円というものが一回かかりましたときと経費でございます。次に受信率でございます。受診率というものは結局被保険者が年間にかけます回数数のことでございます。一人平均二八九・〇三%と申しますから二回と八十九厘平均にかわる。こういうわけでございます。

被保険者一人全体から平均いたしますと三回近く医者にかかっているという数字が出ていますわけでございます。それを掛けて参ります。なおそこに年間被保険者の数を掛けますと、館山市の国民健康保険の被保険者

の医師にかかりましたとき、総医療費が出てくるわけでござい
ます。一億二千二十六万五千四百五十六円という数
字でございます。これが一年間に被保険者が医師にか
かりますところの総医療費でございます。そこで三十八
年度の九月から地域差、撤廃というもうを行なったわ
けでございます。新聞紙上等で騒がれまうたので市取
組と思ひますが、地域差撤廃と申しますのは、東京都で
かかりまうた場合と、徳山市でかかりまうた場合と、格差
があつたわけでございますが、去年の九月からは、格差
を全部一律にまうた関係で従つて、それはねえ、りが今
まで低かつたものが高くなつた。こういうことでござい
ます。そのパーセントでございます。一・四五五を掛けまうたのは、八五
五の増がくるということでございます。

これは全国平均指数でございます。それを掛けまうた

の、一億六千二十八万五千六百という数字が一応見込
 いますところ、被保険者の総医療費ということでございます。
 ます。

次に医療費に対しますところの各種目別と申しますか。
 世帯主の結核性疾病等の保険者の負担分の費用額、
 市の負担で支払う額、算出、予算に計上しなれば
 ならない経費の算出を各欄でお、お、算出してござい
 ます。

まず、第一に世帯主の結核性疾病の計算でございます。
 細かい説明は省略いたしますが、以上のように積算
 しますものが、結核性疾病と精神病に属する給付
 の額が二百四十一万円あります。次の「イ」でございます。
 が、世帯主のその他の疾病の割給付分でございます。
 結核や精神病でないものの給付分、計算でございます。

それが積算いたしまして合計二千七百八十九万二千七百
二十八万という数字が出ております。これが世帯主のた
めに支払われます保険給付費でございます。

次に世帯主の保険者負担分の費用額でございます。
この算出は、まず一応従来通り五割の額を算出した
わけでございます。五割の分と次に七割を設けいたし
ましたという計算がござるわけでございます。

この七割の世帯主の七割給付は、昭和四十年の一月、
来年の一月一日から行なうということでございます。

三十九年度におきましては、都合三カ月分が見込ま
れております。今の欄の下から二つ目のところに二分の
四としてございまして、四百九十三万二千九百三十三円という
数字がございます。この数字はいわゆる三カ月に相当
するものを算出してあります。つまり五割の給付は四月

から十二月まで七割の給付は一月一日からという計算がなされてゐるわけでございます。

合計いたしまして四千五百七十四万四千四百三十九円というものが世帯員に対するところの保険給付の費用でございます。その下り片仮名でございまして、以上申しました療養給付費を申し上げますと、七千六百万七千円という数字でございます。療養給付費として予算に計上してありますものでございます。

次に二、療養費でございますが、これは主として骨つぎの場合の計算がございまして、これは前年度の実績を勘案いたしまして二百七十四万五千円計上したわけでございます。

次う三でございます。審査支払い手数料でございます。これは県下統一いたしまして、医師から出て参ります診

療養報酬支払い明細書の内容審査、それから療養給
付費を支払いを一括いたしまして、集った連合会に委託して
おりますので、その審査並びに支払いの手数料として
連合会に納付する手数料でございます。しかし、これは
手数料と申しましても、療養の給付に必要な処置でござ
いますので、一応療養給付費の中に含めて計算する
ことにしておりますので、ここに計上してございます。
次に四項助産費でございます。二千円で年間四百二十
件を見込んでおります。

五、葬祭費二千円、年間三百六十件、育児手当金千
二百円、月二百円の六カ月、四百二十件を見込んで計上し
てございます。療養給付費、療養費、審査支払い手
数料、助産費、葬祭費、育児手当金等を合計いた
し、このものが、第二款の保険給付費より八千五百五十八万三

千円という数字が、この合計額でございます。

なお、この各節に使っておりますものゝ算出は算出基礎の説明として一応計算してございますので、やう承願いたします。

次に保険料、算出でございます。三十九年度国民健康保険保険税賦課額算定の基礎についてというものでございます。

保険税の算出基礎はまず療養の給付費と療養費と審査支払手数料の合計額の百分七十五を賦課し、なければならぬということになっております。

療養給付費は千六百万七千円、療養費の二百七十八万五千円、審査支払いに要する経費は七千七千円を合算せまして合計七千九百五十一万九千円のうち七五%つまり五千九百六十三万九千円が保険料もしくは税として、

賦課一なければならぬ賦課総額でございます。

しかし、このまま賦課いたしますと、相当額の保険料となるわけでございます。ここで何らかう方法を講じまして、この賦課額を軽減する方法として考えまして、例にすぎまして特別軽減措置を以てここに記載してあります。すもやございませう。

まず、世帯主の七割給付に交付されると思われます。五百四十六万三千元は、国が世帯主の七割給付を行なった場合に交付するという規定になっております。簡保でいわれることもつきでございます。従つてこれは、国がある程度七割給付を行なうためにくゆるものであるから七割給付を行なうために増加する保険料にはおおよそるものをここで軽減してもいいではないか、こういうふうな考へておるわけでございます。

従つてここに軽減の数字にやせてゐる、そういうものを
付改善の世帯主と七割給付に相当する額、二百
八十五万七千円を見込んでおります。

これを国が補助金を出して七割給付を行なう方針
を立てておりますので、保険税の見返りとして引き
下げるものに使つたらいいのではないかと、こういうふうにな
つております。

精結性負担金、これも国が行なつてありますもので七
割を行なうために交付しますものでございますので、こ
れを軽減に使つていく。

繰越金を百万円ほど充当しております。これは五百万
円、繰り越しだけが見込めませんので、その他、経費
に充てますもの等、勘案いたしまして、保険料、繰越
金を一応見込みとして百万円だけを保険料、軽減に

充てたいというわけで九百九十五万一千円の軽減処置
を取りたい。かようにしたわけでございます。従って五千
九百六十三万九千円から九百九十五万一千円を引きまゝに
減りが賦課総額でございます。いわゆる四千九百六十
八万八千円でございます。

ところが、これは賦課総額は保険料を賦課します
場合の率のもとにける数字であるということでございます。
このよつて率を算定し、そのものを調定を見込み
ますと、約九五％程度に調定額は下ってくるだろう。
こういう見込みでございます。なお、低所得者層の減
税がございます。これは、百四十六万九千円を調定の見
込額から引きまゝに、前年より突進の勘案をいたし
まゝで若干下回つたものを計上してございます。

これは渠の指示で前年額をそのまま交付になるとは見

込めないといふことで、そこで若干の百四十万九千円を見込んでございます。従つて実質の調定見込額は、四千五百七十三万四千円でございます。前年度と比較いたしますと、若干の増加となるわけでございますが、これも原因を考えて見ますと、前年の世帯主の七割給付は、十月から行ないました。いわゆる前年度の額は世帯主に対する分は半年分でございます。今年度は十二カ月分かつてくる。それと一月一日から前被保険者に対する七割給付は三カ月分、その分等をなお、その他に地域差撤廃、その他医療費の値上り等、受診率の上昇、あらゆるものが、保険料の若干の増加にやむを得ない現象がきた。こういうふうに見えるわけでございます。調定額は四千五百万円を一応、世帯当りに換算いたしますと、五千九百七十八円あま

リが本年度の平均調定額ではないか。かように考えます。
以上が保険税の算出の基礎でございます。

なお、参考までに先ほど申しました療養給付費の
説明書の、その次のところに、国庫支出金の各種目につ
きまゝで、支出金の計算をした表が二表ほどそえてござ
います。その中で事務費負担金、療養給付費負担
金等は、この算出を中覧になっていただければおわかりに
なると思いますので、省略いたしますが、財政調整交付金
普通調整交付金で二百三十七万五千円、百分の九十五を
見込んでおります。

三十八年度の九五%を見込みということでございます。

見込み過ぎをするなという案の方針でございますので、この
数字を取っております。

特別調整交付金は世帯主の給付改善と割給付に伴う

交付金の算定。それが五百六十五万三千円。次の世帯員の
給付改善に伴う交付金を二百五十八万七千二百円、それか
ら低所得者層に対する減税に伴う交付金、百四十六万
九千円、これが特別調整交付金、内訳でございます。

当初で、その世帯員の給付改善に伴うものは歳入に
見込むことは、あまりかんばしくないという某の指導でござ
います。が、しかしこの世帯員の割給付を実施したいと
いう私たち切なる願いでございます。これによりまして世
帯主も世帯員も七割給付が実施されますことは、い
わゆるお医者さんにいきまうとき、一千万かかりまう場
合は三千円だけ持っていけばよとは用が足りる、だという
ことでございます。

そういうことを考えますと、ぜひこの際七割給付を実施し
たいということでございます。それで、これをあえて計上して

そうして保険料の増嵩は極力避けまいと。なお、そう
給付の面では目的通りの希望する給付を実施したい。
そうして予算の効果をあげていきたいということでございます。
なお、次の表でございますが、これをぜひ参考までに御覧い
ただきたいと思っております。

館山市の三十九年度の世帯当りの保険料は五千九百八十
と円でございますが、他市と比較して見ていただきますと、
館山市は必ずしも高いわけではないということが、やはり
解願えるのではないかと思います。特に目立ちますところ
は安いところはほとんど一般会計の繰り入りを相当額
見込んでおります。これも表の中に入れてございますので、
市参考としていただきます。

前年度よりも約二割程度の増加と思っておりますが、これもや
むを得ない現象であり、給付は万全を期したいという意

味合いからこゝ予算もやむを得ないというふうになら
 考えておるわけでございますが、なお、詳細説明を落
 しこゝたときには、中實向にお答え申し上げたいと思ひます。
 直診勘定につきまゝでは、事務長の方から説明申し上げ
 げます。

(豊房診療所事務長 岩崎一郎君登壇)

・豊房診療所事務長(岩崎一郎君) 国保会計の直診勘定
 におきまゝで、中説明申し上げたいと思ひます。

最初に歳入第一款総務費、第二款医業費、第三款施
 設整備費、こゝらは三十八年度の予算課目におきまし
 ては施設費として一括計上されておたわけでございます
 が、本年度はそれぞの性格内容によりまゝで、こゝ三
 つに分割したわけでございます。

総務費につきまゝで中説明申し上げます。四百五十六万三千円

こゝは人件費と物件費と合わせまゝで、人件費は膨張しておりますが、物件費の方はほぼ昨年と同額程度を計上いたしてございます。

二款、医業費でございますが、こゝは経常的経費となりまして、診療収入と密接な関係がございまして、非常に変動のある費用でございまして、主たるものは薬剤の購入がその主要部内でございまして、二百二十一万二千円、昨年と比較いたしまして、六十九万八千円の減になつております。このことにつきましては、診療収入と本年度の薬剤の購入の数字が若干減少しておるということは、薬剤の購入の適正化といえますが、予算化といえますが、大体国や指導、県の公営医療機関、直診医療機関等の指導方針によりまして、一定診療収入の三割内外を限度というところとございまして、二九・五%を見込まして計上

いたうたわけでございます。

昨年度に比較し、まして減額になります。本年度の場合、運営適正を期し、薬剤の購入に努力したい。こういうふうを考えておるわけでございます。

第三款施設整備費でございますが、これは特に本年度の診療、直診事業をもっとも画期的な事項に属することでございますが、従来の老朽化した施設を現在の出張所に移転したいという切なる望みでございます。それを本年度予算化し、弾びにいたさうていただいなければ、でございます。その経費が五百二十六万三千円でございます。昨年は、この項目につきましては、改善費といたしまして、施設、補修、特に維持、過小の修繕、こういう費用が、昨年のおもちものでございすが、本年は移転に伴う改築ということで、五百二十六万三千円を

お願いいたしたい。こう思うのでございます。一四五ページ
十五節工事請負費 五百五十万、この額をもって是年
実現いたしたい。こういうふうに考えておるわけでございます。
次に公債費、諸支出金、存目程度でございます。

大款予備費でございますが、三十六万円、昨年に比較
いたしまして十四万円の減になっておりますが、これは本
年特殊な建設事業ということでございますので、多分
窮乏な面も十四万円に押し、これをほかの支出の方に
振り向けた関係上、本年三十六万程度予備費として
確保したい。こういう意図のもとお願いたわけてござ
います。以上歳出の合計が千二百四十一万一千円に
なり、三十八年度に比しまして五百十一万の増になろうで
ございます。

次に予算書の一八ページ 説明書の一三一ページ 歳入でござ

ございます。

歳入につきまゝでは昨年と異なりまして第一款の診療
収入がすべて一部負担金、医療報酬、そういったものが一括、この款にまとめられたということでございます。
と同時にその診療収入は従来非常に複雑化してあつたわけでございますが、本年度は入院の収入、外来の収入、それからその他収入、この三つに大きく分けたいでございます。

入院収入につきまゝで中説明申し上げます。これは昨年度に比べまして七万円の増でございます。大体昨年度と同額程度を計上いたしたわけでございますが、これは次々外来収入のところでも中説明申し上げたいと思います。若干国保が減少、社保が増加の傾向をたどつておるということでございます。合計いたしまして

本年度の収入予定が百八十一万八千円でございます。

次に第二項の外来収入でございますが、市内の国民健康保険診療収入に該当します。百二十万八千円、保険事業勘定は繰入金と同じ額でございます。

これは本年度の実績を一度見まして推定積算のわけでございますが、この本年度の場合、医師の交代によります若干の空白期間があったわけでございます。これに基きまして収入が減ということでございます。非常にこの積算がつかみにくかったということで若干減少した。四十四万三千円の減ということに考えらるるではまいぬと思われまして、これがよく反しまして、社保の方は実績による積算に基きまして若干づつ向上しております。従いまして、この積算数字を三十九年度の収入目標といたしまして二百七十九万六千円見込んでございます。

第三目の一、負担金、収入でございすが、国民健康保険、被保険者の先ほど説明のありき、五割負担あるいは、世帯主、三割負担、こういつたような数でございす。

これは昨年と比較いたしますと、世帯主、二割減もございまして、若干減すものではないうという見込みでございす。

その他、診療報酬収入でございすが、これは他町村の医療報酬、国保の医療報酬、一般診療、市町村診療でございす。この分が主たるものでございす。その他、診療収入は存目でございす。以上が歳入として、診療所、生命でございして主たる収入源でございす。第三款、使用料及び手数料、診断書、証明、どういつた証明手数料の収入でございす。

第三款、国庫支出金、これは先ほど歳出の方において、

この繰入金はあくまでも建設費に対して充当するものであつて一般財源とはいひないといふことでございます。そのような目的のもとに一般会計から五千万円お願いしたい。

繰入金九款 存目でございます。

第九款市債でございますがこれは先ほど申し上げました建設費五百万円に対する国の補助の差引きにつきまして八割額を一応起債額と見込みまして計上いたした次第でございます。

歳入合計いたしまして千二百四十一万一千円 歳入歳出ともに残額はございません。

次に第三表の地方債、予算書う三三ページ、これは歳出の方面におきまして施設整備費におきます建設事業費五百二十六万三千円に対して、歳入の項につきまして

も第十款市債として三百五十万円の起債をお願いいた
願と地方債第二表に基きまして中承認願いたい。かよう
に思っております。以上説明を終わりたいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後三時五十八分

休憩

午後四時十七分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

(厚生課長 吉田耕一君登壇)

厚生課長(吉田耕一君)議案第八号特別会計と畜場につ
きましての説明申し上げます。

予算の三八ページ、この予算につきましては歳入におきま
して百九十万一千円、歳入歳出同額でございます。歳出

の事業費が百五十三万円、公債費二十八万一千円、予備費十万円、歳入関係でございますが、事業費収入といひまして百八十万、繰越金を十万、その他預金、利子等を千円程度存目を見て百九十一万円をそれぞれ計上したわけでございます。明細書の方が一五四ページ歳出でございますが、百五十三万円を一般管理費として計上したわけでございます。この経費費の大部分は人件費であり、項以下いろいろの事業を管理していく上について必要な経費をそれぞれ計上したわけでございます。昨年と大差ございませんので、この説明欄によって承認願ひたいと存するわけでございます。公債費、予備費につきましても、説明欄によりまして承認いただきたいと考える次第でございます。

一五三ページ歳入でございます。と畜場、使用料、それから冷蔵庫、使用料でございますが、これが大きな収入とな

つておるわけでございます。そして、繰越金を十万円程度
見たわけでございます。細かい使用料や明細等につきましては、
説明欄で承認をお願いいたします。合計百九十一万円を計上いたしまして、増資をいたす
りたるところに考えます。次でございす。

一五八ページ当該年度末におきまして、現在高が見
込みの調書というものがございまして、と畜場や地方
債をいたしております。状況調書をここにあげてありま
す。で、中見をいたしたいと存ずる次第でございす。

次に、議案九号特別会計簡易水道についで、説明
申し上げたいと思ひます。

予算書の四四ページ、歳入におきまして、事業費、百三十四
万三千円、この内訳といたしましては、総務管理費と水道
管理費に分かれております。

ニ款公債費九十七万三千円、予備費三十万八千円でござい
ます。

歳入の方で分担金、負担金でございすが、それと使用料、
手数料、寄付金、繰越金、諸収入等、この五つを款に分けて
おろし、各項に示された額を収入見込みとして計上したわけ
でございします。

歳入歳出のおろし二百六十二万四千円を計上いたした次でござ
います。

次に明細書の一大五ページ簡易水債でございすが、波左衛
加賀名水債、鉈切簡易水債、両方を包含いたして予算
を編成して参ったわけでございします。大体三つが歳出、五つ

が歳入によりまして歳出面につきましては一般管理費におき
まして六十万、三千円を計上したわけでございしますが、これは
この事業の運営管理に必要な節で示すところの経費

を計上してあるわけでございます。

水道管理費のうち維持管理でございますが、やはりお
おろこの会計を繰越すに必要であり、また水道を管
理する上におきまして必要な経費をそれぞれ計上したわけ
でございます。二十四万円を計上にいたしております。

次の公債費でございますが、彼左間簡易水道の償還時期
にわたっておりますので、償還金及び利子等を計上にいた
しております。

次に一六三ページより二〇歳入でございますが、彼左間
鉈切地域の使用料を中心といたしまして、百九十九万
基礎といたしまして前年度繰越金等を合算しまして
歳入歳出とも二百六十二万四千円を額をもって経費して参
りたい。このように考えまして、繰越金に次第でございます。

なお、明細書の七ページでございますが、地方債の状況調

書といひまして計上してございますので、御覧をいたさない、このように考える次第でございます。

次に特別会計上水道事業会計につきまして、御説明いたします。

予算書は六ページ歳入歳出とも、三百三十五万二千円を計上していただいております。

歳入の面におきましては、負担金、使用料、手数料、諸収入、この三つの款に基きまして、各項の収入をこのように見たわけでございます。そなた収入に基きまして、事業費、予備費というような款に分けまして、三項に支出をいたすという事で計上した次第でございます。

明細書は八ページ、この上水道関係でございますが、従来は、一般会計といひまして、水道費で経費の計上をしておったわけでございますが、今回特別会計を設置いたし

まして、二、運営に當つていきたい。このように考えるわけでございします。なお、先ほど申し上げました歳入の手数料、使用料、いろいろそうした場合につきましても、ちほど設置並びに管理に關する条例におきまして、細かい説明をまゝしていただくのと存じますので、細い点を省きまして、手算の概況を、説明申し上げたいと思ひます。

一、ルーパーの一般管理費でございしますが、これはどうしても運営管理する上について、必要なものなう、経費をここに計上いたしたわけでございします。

二、項、水道管理費でございしますが、事業に必要な経費を上げたわけでございします。

歳入歳出とも、合計三百三十五万二千円をもって、運営をしていくというふうな方針でございします。なお、この財源といふことは、これは一般財源から求めて参りたい。

このように考える次でございす。以上でございす。

(観光課長 小沢正治君 登壇)

・観光課長(小沢正治君)特別会計休養施設の部につきまして説明申し上げます。

予算書四九ページでございす。明細書は一七三ページ、山荘の会計でございす。

三十九年度の予定といしまして大体前年度対比二百五十万円程度の増額は十分見込み得るという考え方から年間の経営費を一応その線で抑えまして予算化にわけてございす。が、事業収入におきまして二千五十八万五千円、使用料四万六千円、財産収入で三千円、諸収入七十六万三千円、合計二千百三十九万八千円でございましてこれに對しまして歳出二千百三十九万八千円でございす。

歳入の事業収入の内容といしましては、明細書の一七五

ページにありますものを見込んでおるわけでございます。

歳末におきまして非常に安定して参っておりまして、関係上、九年度の目標といったことは、従来員の仕事管理の改善、それから増築いたしまして、既に食堂が四十五名の数、食堂をそのまま使用してあります。

従業員にも勤務が週重になっておるといふから、食堂の拡張を計画してございまして、百名が一階に食事するといふような関係から、二十坪の食堂の増築、それから、現在、調整を口止め、応接員が従業員宿舎というものがございまして、宿泊施設の中に預け込みで従事してございということから、逐次従業員を独立させていく必要があらうかと思ひますので、本年度まず調理士の宿舎を十坪程度計画しておきわけでございます。その関係が明細書の一七九ページの工事費費二百四万六千円、食堂拡張工

事と老店従業員宿舎、こが主たるものでございます。
 一ハ、ページ、公債費、二百六十万七千円、償還をいた
 して、十分償還は、まかなひ得るという見込みでございます。
 明細書、一八二ページに本年、度、償還、見込みと償還後
 の残高の關係が出ておりますので、御覧いただきたいと思
 います。以上で鳩山荘の、説明を終ります。

ユースホステルでございますが、予算書は五五ページ、明細書
 は、一八五ページからでございます。昨日、三十八年度、最

終、補正予算におきまして若干申し上げたわけでござ
 います。鳩山荘の安定した利用率、六〇%を越えまよう
 な状況に對しまして、ユースホステルは、一応、三十八年度にお
 きまして、利用率、三〇%を見込め、まして、予算化した
 りでございますけれども、そのような状態、で、三十八年度
 において、二〇%を越えるかどうかというような状態、になつて

おるわけでございますが、三十九年度は再び利用率三〇％を何とか確保いたらない。

そういった希望的な目標額をもちまして編成いたいたわけでございます。従いまして予算対比は前年度とはと

んど同額でございます。三〇％の利用率を目標とい
たしまして管理費であり、営業費でございます。内
容的には特に変わった点はございませんで、何とか三〇％程
度の利用率を上げまして他会社より繰り入れをせわ
にならなくても独立採算ができるような彈^{だん}算にいたいた
いという関係で希望的な予算でございます。それが
合計いたしまして三百二十六万六千円ということになる
わけでございます。

簡単でございますが、以上をもちまして説明を終わります。

議長（黒川住太郎君）以上で全予算案の説明を終わりました。

この際、会議日程についておはかりいたします。

昨日決定されました会議日程にすぎますと、明十三日は本日に引き続き、各款説明及び一般議案の審議となっておりますが、各予算案の内容説明は本日全部終了いたしましたので、明十三日は一般議案の審議といたしたいと思います。い

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって明日の会議日程は変更されません。

本日の会議はこれで散会といたします。

次会は明三月十三日午前十時開会といたします。

その議事は、予算案を除いた一般議案の審議といたします。

午後四時四十分

散会

本日、會議に付、大事件、

一、議事日程に同下、

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館 石 佐 蔵

田中 祿 郎

秋 山 大三郎

田村 源治郎

望 目 照 正

安西 益 男

辻 田 実

石井 正

黒川 佐太郎

志村 信 作

小 沢 惠太郎

関 武 夫

西村 真 次

藤 田 好 治

保 科 忠 夫

江田 徳太郎

君塚 喜三

中村 省吾

島野 茂樹郎

荻生田 七郎

鈴木 孝

鴻田 繁

山田 教字

鈴木 市蔵

安藤 亀吉

安次 徳順

三沢 節

高橋 文治

松本 藤太郎

欠席議員

菊井 敏博

山本 昇

山口 康

出席事務局取員

第一日目 同ト

出席説明者

第一日目 同ト

